

# 『価格と品質』への転換 ～総合評価落札方式について～

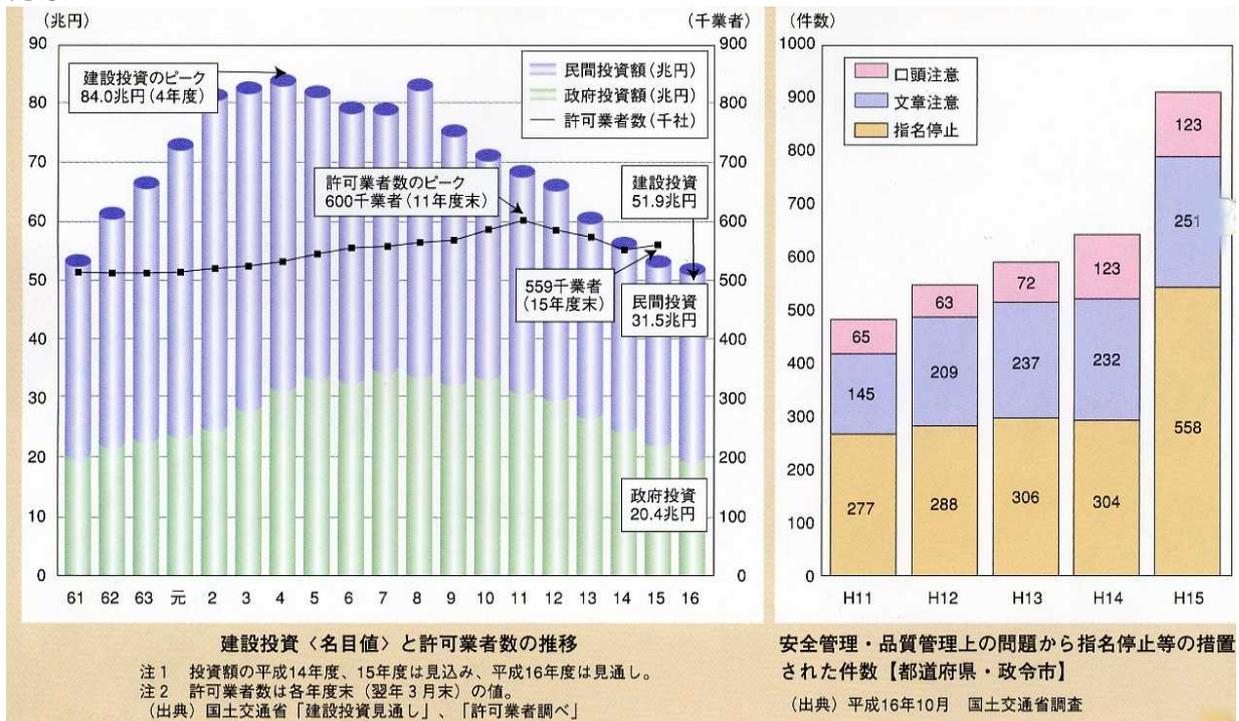


神通川水系砂防事務所 西出 保

## 1. はじめに

平成17年4月1日から『公共工事の品質確保の促進に関する法律』が施行され『価格競争』から『価格と品質の競争』へと入札参加業者の施工技術と入札価格を総合的に判断して落札業者を決定していく「総合評価落札方式」の導入を進めていくこととしています。北陸地方整備局管内では、昨年度は、発注金額の10%程度で行っていたものを平成17年度は、35%程度に拡大して実施していく予定にしています。今後、いかにして孫の代まで安心して暮らせる国土をつくっていくのかますます問われる時代となっていると思います。本文ではその施策の一貫として実施されている「総合評価落札方式」について述べていきたい。

## 2. 背景

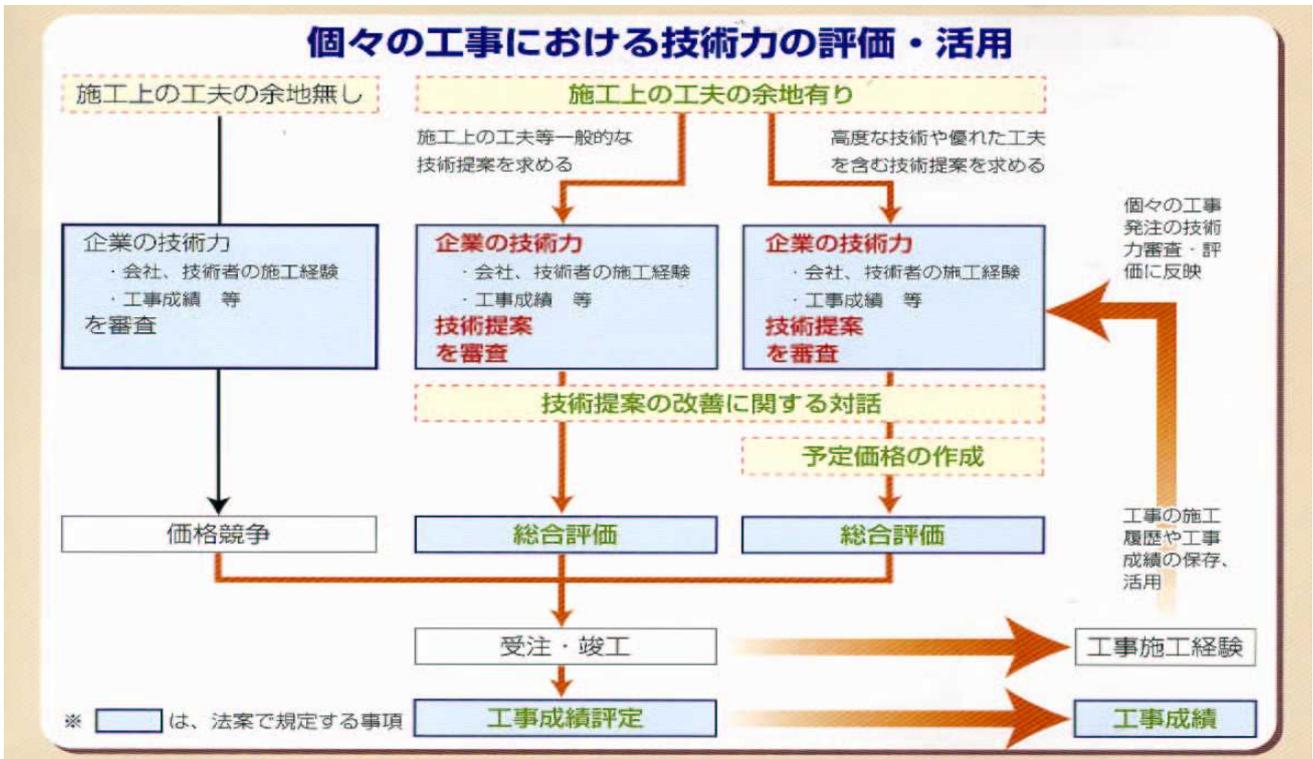


- ① 建設投資が減少（平成4年度のピーク時の約60%）する中、許可業者数はほとんど変わらない。
- ② 価格のみの競争入札による過当競争が繰り返されれば適切な技術力を持たない受注者のダンピングにより不良工事の発生が懸念される。
- ③ 品質の良いものをつくろうとする企業努力が損なわれることに繋がる。
- ④ 豊かな国民生活の実現や安全の確保、環境の保全は品質の高い社会資本が整備されることにより実現され、受注者の技術力等に大きく左右される。
- ⑤ 公共工事の実施にあたっては、適切な技術力を有する受注者による施工が求められることから選定にあたり価格のみならず十分な審査を行うと同時に施工過程において適切な監督及び検査が重要になっている。

### 3. 審査の過程

下表のような過程を経て審査していきます。

なお、技術提案については、発注者側から改善を求め、改善したものを提案するように機会を与えるようにしています。



### 4. 評価方法の例

#### ●舗装工事における走行音低減の評価例

$$\text{評価値}^{\ast 1} = \frac{\text{得点}^{\ast 2}}{\text{価格}^{\ast 3}} = \frac{\text{基礎点} + \text{加算点}}{\text{価格}}$$

- 「路面騒音の低減」を評価項目と設定する。
- このとき、標準的な設計・工法で達成される騒音の標準値89dBに対して、目標値を87dBと設定する。

※1：最も高い企業＝落札者

※2：評価項目ごとに予め定めた計算法により技術提案の内容を得点換算する。

※3：工事価格のほか、維持管理費等の技術提案の内容に応じた必要コストを含めることができる。

基礎点とは？

$$\frac{\text{基礎点価格}}{\text{予定価格}} \times 100 = \text{基礎点}$$

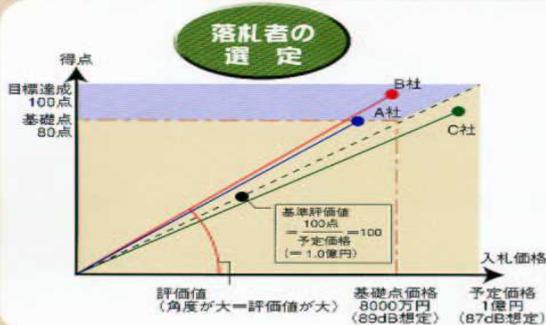
- 標準値89dBを達成する場合の積算工事価格＝8,000万円を基礎点価格とする。
- 目標値87dBを達成する場合の積算工事価格＝1億円を予定価格とする。

加算点とは？

「加算点」とは、標準値を上回る提案に対し、内容の評価に応じて、加算される得点

○予定価格に対する基礎点価格の割合(%)が基礎点となり「8,000万円÷1億円×100点」＝80点となる。

- 標準値89dBと目標値87dBの差＝2dBに、加算点として100点満点と基礎点80点の差＝20点を割り当てる。
- 標準値を上回る提案に対して、測定精度を考慮して0.5dBの低減ごとに5点を加算することとする。



○技術提案内容を審査し、実施体制等が確実な提案について、内容を上記の方法で得点換算し、評価値を算出する。

- A社 提案値 89.0dB、入札価格0.70億円  
(基礎点80点+加算点 0点)÷0.70億円＝評価値114
- B社 提案値 87.5dB、入札価格0.75億円  
(基礎点80点+加算点 15点)÷0.75億円＝評価値127
- C社 提案値 88.5dB、入札価格0.95億円  
(基礎点80点+加算点 5点)÷0.95億円＝評価値89

A社は技術提案はないものの、価格は最も安い。  
B社は技術提案は最良、価格は2番目に安い。  
C社は予定価格に相当するコストパフォーマンス  
(図中の基準評価値＝100)を下回る提案であるため失格。

結果は、コストの上昇を抑えつつ、最も目標値に近い工事を提案したB社の落札となる。

#### 4. 実施した事例

当事務所においては、今年度の9月より全ての工事において、総合評価落札方式としており、(標準型)で、平成15年度には、岩坪谷第4号砂防堰堤工事(3ヶ年国債)。昨年度は、白谷第6号砂防堰堤工事(3ヶ年国債)。今年度は、尻高谷第2号砂防堰堤工事(3ヶ年国債)に、(簡易型)で、殿宿舎新築工事、光ケーブル布設工事、跡津川下流第3号床固工工事、平湯川砂防樹林帯第4号帯工工事を発注しています。

評価内容としては、(標準型)で施工箇所が中部山岳国立公園内で観光客も多いことなどから工事期間中のNO<sub>x</sub>(地球温暖化に影響のある窒素酸化物)の削減や観光期間中のコンクリート打設量の削減、間伐材の使用などと価格を総合的に判断して受注者を決定する方法を導入しています。また、(簡易型)における評価は当該工事の現場条件を踏まえ適切かつ確実に施工上の性能等が確保できるかどうかを確認するため、簡易な施工計画を評価しています。(簡易型)の場合、主として施工計画に得点配分しています。

- \* 1 総合評価落札方式(簡易型)＝施工能力審査型。当事務所において全国に先駆けて実施しました。過去の工事実績や技術者数などから企業の実力を点数化し、応札額と総合的に評価して落札者を決定する方式。
- \* 2 総合評価落札方式(標準型)＝技術提案型で従来から実施してきたものです。工事案件毎に一定の要件のもとに技術提案を求め、それらを点数化し、応札額と総合的に評価して落札者を決定する方式。

#### 岩坪谷第4号砂防堰堤工事(H15～H17)

1. 排出ガス対策型建設機械のNO<sub>x</sub>排出量削減  
二次基準に指定された建設機械の削減率について評価。
2. 現場発生伐木材の現場内リサイクル  
伐木材対象量に対する用途について評価。



間伐材による緊急避難路

間伐材を利用した工事看板

#### 5. 総合評価落札方式(簡易型)における評価項目・評価基準の設定例

次年度以降において、発注されるものは全て総合評価落札方式(簡易型)になります。下表は発注者側において設定する予定の評価項目・評価基準の設定例となりますので、今後の参考としていただきたい。

○ 簡易な施工計画について

評価項目	評価基準
施工計画の実施手順の妥当性	工事の手順が適切であり、安全対策等の工夫が見られる。
工期設定の適切性	各工程の工期が適切であり、工期短縮が見られる。

【その他】

○ 簡易な施工計画について

評価項目	評価基準
コンクリート、鋼材溶接部等の品質の確認方法、管理方法の適切性	品質の確認方法、管理方法が現地の環境条件（地形、地質、環境、地域特性等）を踏まえて適切であり、安全対策等の工夫が見られる。
発注者が指定した施工上の課題への対応の的確性。 ・ 与条件との整合性 ・ 理解度 ・ 対応方針等の裏付け 等	課題への対応が現地の環境条件（地形、地質、環境、地域特性等）を踏まえて的確に図られ、安全対策等の工夫が見られる。
施工上配慮すべき事項の適切性。 ・ 与条件との整合性 ・ 理解度 ・ 対応方針等の裏付け 等	配慮事項が現地の環境条件（地形、地質、環境、地域特性等）を踏まえて適切であり、安全対策等の工夫が見られる。

○ 配置予定技術者の能力について（ヒアリングを実施する場合）

評価項目	評価基準
技術者の専門技術力 ・ 関連分野における施工経験や知識量 ・ 担当工事における創意工夫の取組	実績として挙げた工事の担当分野に中心的・主体的に参画し、創意工夫等の積極的な取り組みが確認できる。
	実績として挙げた工事の担当分野において適切な工事管理を行ったことが確認できる。
	その他
当該工事の理解度・取組体制 ・ 当該工事の施工上の課題や問題点等の理解度（質疑応答の状況を含む。） ・ 課題への対応に関する技術的な裏付け	当該工事について適切に理解した上で、施工上の提案等適切な取組体制が認められる。
	当該工事について適切に理解している。 その他
技術者の技術上のコミュニケーション能力	技術上の質問に対する応答が明快、かつ迅速である。
	その他

○ 配置予定技術者の能力について

評価項目	評価基準
過去 10 年間の同種・類工事の施工実績の有無	同種工事の実績あり
	類似工事の実績あり
過去 2 年間（5 年間）における工事成績評定点の平均点	75 点以上
	65 点以上 75 点未満

	65点未満
過去2年間（5年間）における優良工事技術者表彰の有無	表彰の実績あり
	表彰の実績なし
継続教育（CPD）の取組状況	継続教育の証明あり （各団体推奨単位以上取得）
	継続教育の証明なし

\* 1 評価項目の欄：「（5年間）」は、建築事業に係る工事の場合に適用。

\* 2 CPD：Continuing Professional Development の略。技術者の継続的な専門能力開発を意味し、各学協会等において学習履歴を証明している。

○ 企業の施工能力について

評価項目	評価基準
過去10年間の主任（監理）技術者の施工経験の有無	同種工事の実績あり
	類似工事の実績あり
過去2年間（5年間）における工事成績評定点の平均点	75点以上
	65点以上 75点未満
	65点未満
過去2年間（5年間）における優良工事表彰の有無	表彰の実績あり
	表彰の実績なし
過去2年間（5年間）におけるイメージアップ優良工事表彰の有無	表彰の実績あり
	表彰の実績なし
過去2年間（5年間）における安全管理優良請負者表彰の有無	表彰の実績あり
	表彰の実績なし
当該工事の関連分野における技術開発の実績の有無	特許権、実用新案権の取得あり
	新技術情報提供システム（NETIS）への登録あり
	該当なし
品質管理・環境マネジメントシステムの取組状況	ISO9001 又は 14001 の認証を取得済み
	認証を未取得
技能者の配置状況、作業拠点の有無、施工機械の保有状況等の施工体制	施工体制が確保されている 工事の実施にあたり、施工体制が整備されている。

\* 1 評価項目の欄：「（5年間）」は、建築事業に係る工事の場合に適用。

○ 企業の手持ち工事量について

評価項目	評価基準
当該年度受注額÷過去3年間の平均受注額＝手持ち工事量比率	手持ち工事量比率 < 0.25
	0.25 ≤ 手持ち工事量比率 < 0.75
	0.75 ≤ 手持ち工事量比率 < 1.25
	1.25 ≤ 手持ち工事量比率

○ 地理的条件について（工事の内容に応じて）

評価項目	評価基準
地域内における本支店、営業所の所在地の有無	拠点あり
	拠点なし

過去 10 年間の近隣地域での 施工実績の有無	施工実績あり
	施工実績なし
過去 10 年間の主任（管理） 技術者の近隣地域での施工実 績の有無	施工実績あり
	施工実績なし

○ 災害協定等による地域貢献の実績について（工事の内容に応じて）

評価項目	評価基準
過去 5 年間の災害協定等に基 づく活動実績の有無 〔評価対象の例〕 ・ 災害対応協定に基づく活 動実績 ・ 大規模災害時の応急対策 実績	活動実績あり
	活動実績なし

○ ボランティア活動による地域貢献の実績について（工事の内容に応じて）

評価項目	評価基準
過去 5 年間のボランティア活 動の実績の有無 〔評価対象の例〕 ・ 災害ボランティアの実績 ・ ボランティアサポートプ ログラム参加実績 ・ クリーンアップキャンペ ーン参加実績	活動実績あり
	活動実績なし

## 6. おわりに

この建設業界に渦巻く厳しい国民の声とさらに厳しくなる予算の中、より効果的・効率的な執行が求められている現状において、総合評価落札方式で発注する事は、高い技術力で施工されることになり耐久性の向上につながり、結果的に安上がりとなることや技術と価格の両面からの発注となるので社会問題化になっている『談合』の防止にもつながるものと思います。また、今までも新技術を極力取り入れ、コスト縮減、建設副産物のリサイクル向上、省力化・省人化、施工性のスピードアップに取り組んできましたが、さらに速やかに品確法が精神が浸透していくよう官民一体となって取り組んで良質な社会資本整備の推進に寄与することを期待しています。

### \* 参考図書

公共工物品確法と総合評価方式（監修：自民党の公共工物品質確保に関する議員連盟）